

国際協力特別賞

明日は今日よりも優しい日

立命館宇治中学校 2年

沢田 和奏

私は、10歳の誕生日直前、アメリカへ渡った。父の仕事の関係でアメリカに住むことになったからだ。私が現地で通った小学校、中学校にはインド人、メキシコ人、中国人などが数人在籍していたが、日本人は私1人だけだった。世界はとても広く、文化も宗教も外見も違った様々な人がいる。それまで日本の小さな街で小学校に通い、小さな世界を当たり前だと思っていた私には衝撃的に映った。3年3カ月のアメリカ生活を終え帰国し、4月から私は、日本の中学2年生になった。

久しぶりの日本で一番戸惑ったことは、日本人は周りに関心を払わないということだ。日本人は冷たいと感じた。アメリカでは必ずといっていいほど、ドアを先に開けた人が、後ろから来る人のために笑顔で押さえていてくれる。そして「ありがとう」「どういたしまして」という会話がある。エレベーターに乗っても、自然と「何階ですか？」という声かけが行われる。日本ではスーパーのレジの行列などで、隣の列のほうが進みが早いとイライラしてしまい、少しでも早い列に並ぶとラッキーと思ったりするが、アメリカでは自分より早く並んだ人が隣の列にいたら、こっちへどうぞと譲ることがめずらしくない。

日本人にも人に親切にしたいという気持ちはもちろんあって、世界でトップクラスのまじめな仕事ぶり、外国人観光客へのおもてなしの心などは誇れるものだろう。しかし、仕事を一步離れたプライベートな時間ではどうだろうか。他人と足並みをそろえることを重視して、必要以上な引っ込み思案になってはいないだろうか。日本人ならできて当たり前、空気をを読むのが当然などと決めつけてはいないだろうか。

日本人が日本人に対して冷たいというのも、帰国子女の間でよく聞く話だ。私も帰国直後、日本円を使うのが久しぶりで細かい金額を払うのに迷ってしまったことがある。店員さんに「なんだ、この子」という顔でジロリと見られたことを覚えている。

私はアメリカ生活を経験したことで、以前より他人に優しく接することができるようになり、気持ちに余裕も生まれた。なぜなら、アメリカで言葉が通じず、苦労を山ほどしたが、次第に周囲に受け入れてもらえ、認めてもらえることがとても幸せだということに気が付いたからだ。

世界には様々な文化、考え方の人がいて、それを認め合うことが大切だと学んだ。私は、日本の習慣に戸惑っている日本人がいても、久しぶりの日本なのかなと以前の自分になぞらえて考えることができる。以前なら動作が遅い、変な人という感想で終わっていたかもしれない。

目まぐるしく過ぎていく日常の中で、少しでも自分が幸せだと気づき、周りの人に目を向けて、明日を今日よりも優しい日に、そんな気持ちをみんなが持つことができれば、明日は今日よりも少し平和になると思う。